

科目名	心と行動Ⅱ	科目分類	□専門科目群 (第1グループ) ■総合科目群 (第2グループ)
			全学科 □必修 ■選択
			学科 □必修 □選択
英文表記	Mind and Behavior II	開講年次	■1年 ■2年 ■3年 ■4年
ふりがな	たきざわ じゅん	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中
担当者名	瀧澤 純	修得単位	2単位
授業のテーマ	心理学の中でも応用的な部分を学ぶ。		
到達目標	心理学の応用的な用語や理論についての知識を身につける。身につけた知識を用いて、自分や他者の心を理解し、説明できるようになる。		
授業概要	心理学の講義を行う。コミュニケーション、色などの応用的な話題を中心に取り上げる。多くの授業でペアでの意見の共有、グループワーク、心理学の実験や調査の体験を行う。		
授業計画			
第1回	心理学の見方：心理学の歴史、心理学の応用可能性		
第2回	芸術と発想力：感動と人生満足度、BGMの勉強への影響、創造性		
第3回	色① 色の効果：服の色と魅力、色と売り上げ、色と犯罪、色と聴覚、色と味覚		
第4回	色② 視覚の不思議：不可能図形、ストロープ効果 感情：6基本感情、吊り橋実験		
第5回	コミュニケーション① ジェスチャー：ハンドサイン、パーソナルスペース、聴くスキル①		
第6回	コミュニケーション② 恋愛と友情の初期：メラビアンの法則、好意の原則、聴くスキル②		
第7回	コミュニケーション③ 恋愛と友情の中期・後期：告白、失恋、人間関係の深まり、反射		
第8回	コミュニケーション④ 方言：地域方言と社会方言、方言のイメージと恥ずかしさ、主張性		
第9回	コミュニケーション⑤ 対人行動：いじり・助言・陰口、バランス理論、ジョハリの窓		
第10回	夢分析：フロイト派とユング派、夢の5種類、睡眠研究から		
第11回	犯罪：犯罪者の心理、犯罪者とパーソナリティ、サイコパス、嘘発見器		
第12回	極限状態：トンネル視野、ストックホルム症候群、催眠、洗脳とマインドコントロール		
第13回	超能力：超能力と心理学の歴史、千里眼事件、2011年に発表された Bem の論文		
第14回	注意：見落としやうっかりミス、不注意盲、変化盲、選択盲、カクテルパーティー効果		
第15回	心とは何か：心の知覚、乳児・ダンゴムシ・ロボットに心はあるのか、チューリングテスト		
第16回	定期試験		
授業時間外の学習	授業計画に書かれた用語について予習し (1.5 時間程度)、毎回の復習を行うこと (1.5 時間程度)。メディアで見聞きした心理学の情報、自身が感じた心理学の疑問についてメモすること (0.5 時間程度)。		
履修条件 受講のルール	空欄がある資料を授業中に配布する。空欄を埋めた状態の資料すべてが、定期試験の範囲となる。心と行動Ⅰの単位を取得していることが望ましいが、必須ではない。		
テキスト	使用しない。		
参考文献・資料	Nolen-Hoeksema ほか (著) 『ヒルガードの心理学 第16版』 (ブレーン出版, 2015年) 池田 謙一ほか 『社会心理学 (New Liberal Arts Selection)』 (有斐閣, 2010年)		
成績評価の方法	平常点 (授業態度、提出用プリント) を 40%、定期試験を 60%として評価する。平常点の中の「提出用プリント」は、科目担当教員が内容の充実度を判断し、成績に加味する。		
オフィスアワー	月曜日の3時限 (13:00 から 14:30)、金曜日の2時限 (10:40 から 12:10)		
成績評価基準	平成28 (2016) 年度以降入学した学生 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) 平成27 (2015) 年度以前に入学した学生 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) ※出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。		
学生へのメッセージ	この授業は、人間に関する学問すべての基本となります。日頃感じている疑問を、教員にぶつけてみてください。		